

生ごみ処理機による処理は発酵が不十分です。処理物は堆肥とはいえないので施肥するときは入れすぎに注意しましょう

家庭用生ごみ処理機

家庭の生ごみを減量し、有機肥料として利用できるなどとうたった微生物分解型の生ごみ処理機が販売されています。しかし、実際に使用してみると処理がうまくいかなかったといった声もあります。

そこで、生ごみはうまく分解できるのか、また、処理物を肥料として使ったとき植物への影響があるのかテストし、その結果を下記のとおりお知らせします。

1．生ごみ処理

微生物分解型生ごみ処理機を用いて、2つの生ごみのモデルで3か月処理

モデル1：野菜、果物、生鮮魚介類、卵殻等の調理くず

モデル2：上記調理くず及びご飯、麺類、魚介類の煮付け、鶏唐揚げ、野菜炒め等の食べ残し

2．テスト項目

処理状況の観察、悪臭、減量率、施肥したときの小松菜への影響等

3．主なテスト結果

(1) ご飯などデンプン質が多いと処理物が団子状に

野菜や果物、魚の頭や骨、ご飯等はよく分解されたが、卵殻、たまねぎの皮等は分解が遅く、枝豆の繊維は分解されなかった。

また、ご飯、うどんなど、デンプン質の食べ残しの投入を続けると、処理を開始して1か月半を過ぎる頃から処理物が食品の周りに付着して団子状のものができた。団子状になると中の生ごみは分解されなかった。

(2) 食べ残しを入れたモデル2は処理物が処理槽に付着、悪臭の発生も多い

食べ残しを入れたモデル2では、処理槽の壁面や隅に処理物の付着が目立った。また、モデル1、モデル2ともにアンモニアの発生が見られたが、モデル2の方が発生頻度が多く、濃度も高かった。

(3) 大量に施肥すると小松菜の発芽、生長に影響

処理物を施肥した時、処理物の土壌に対する割合が約3%以下の場合には小松菜の発芽、生長に特に悪影響は認められなかった。

しかし、処理物を大量に施肥すると、発芽が遅れたり、生長があまりよくないものがあつた。生ごみ処理機の処理槽内部の温度は、通常、25～35程度であり、発酵が不十分であることなどが考えられる。

4．結果に基づく措置

(社)日本電機工業会に対し、処理物を施肥するときの注意事項等について、取扱説明書に記載するよう要望する。

5．消費者へのアドバイス

(1) 生ごみ処理機で、すべての生ごみを処理できるわけではないので、取扱説明書をよく見て、処理できないものは分別し、投入しないようにしましょう。

また、ご飯などのデンプン質の食べ残しが多いと団子になりやすいので、投入量は少な目にしましょう。

(2) 処理槽の壁などに処理物の付着が目立つようになったら、処理物をかき落とすようにしましょう。放置すると処理槽の有効容積が減り処理効率が落ちます。

(3) アンモニアなどの悪臭物質が発生するので、生ごみ処理機は必ず屋外に設置しましょう。

(4) 処理物を園芸用などに利用する場合は、大きな団子状のものは取り除いた後、適量を土壌に混ぜ、しばらく熟成期間をおいてからにしましょう。

【問い合わせ先】

東京都消費生活総合センター技術支援課

電話 03(3433)8563 ~ 8567

H 1 4 . 7 . 2 9